

「生きる力を輝かせるこれからの心の教育・道德教育フォーラム」のご報告

多数のご参加, ありがとうございます。

2月14日(金), 本学「総合的道德教育プログラム」推進プロジェクト主催の上記フォーラム(東京都教育委員会及び小金井市・小平市・国分寺市教育委員会後援)がプロジェクト活動の5年間のひと区切りとして本学のS410教室で開催されました。当日は記録的な大雪にもかかわらず, 全国から, 教員, 教育行政関係者, 学生等を中心として, 約150名にご参加いただきました。その概要を以下にご報告します。

フォーラムは, 「生きる力を輝かせるこれからの心の教育・道德教育」をテーマに幅広い内容で実施されました。本事業立ち上げに尽力された学長からの挨拶に始まり, 第1部では, 本プロジェクトの実施報告, 調査報告, 今度の道德教育への提案が行われました。第2部では, シンポジウムとして「新しい道德教育をどう進めるか—道德「教科化」時代に求められるもの—」をテーマに, 小学校・中学校の学校長, 大学教員等をシンポジスト及びアドバイザーに迎え, 現在の課題に対峙するための議論がなされました。外の大雪の空とは対照的に, 質疑応答は熱気が感じられるものとなり, 午後4時50分に閉会しました。



第1部
【成果のご報告】

「総合的道德教育プログラム」の成果とこれから

13:30 ~ 14:45 S410 教室

コーディネーター：小森 伸一 (東京学芸大学)
村松 泰子 (東京学芸大学学長)

- 学長挨拶
- 実施報告 総合的道德教育プログラムの取組

実施報告では, まず「本学で取り組む『総合的道德教育プログラム』とは」として, プロジェクトの概要と経緯が説明されました。その後, 各プロジェクトが5年間で行ってきた成果がそれぞれ報告されました。

第1プロジェクトでは, 「これからの道德教育を担う大学生の教員養成の充実」として, 大学授業の効果的な実施, 教職科目用テキストの開発が, 本学教員の永田繁雄より報告されました。また, 「夏が一層熱くなる道德授業パワーアップセミナー」として小中学校教員向けセミナーの実施内容, 合わせて研修講話・授業実践ビデオの開発も報告されました。

第2プロジェクトでは, 「魅力ある道德教育教材の開発」として, 18ワーキング(合計98名)による各講座・センター等の英知を生かした道德教育教材の開発内容と実際の教材例が, 本学教員の北詰裕子より報告されました。

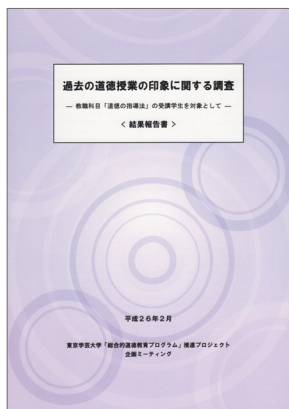
第3プロジェクトでは、「心を育てる体験学習プログラムの開発」として、大学教員と附属や地域の学校園の教員を中心とした10ワーキング（合計61名）による魅力的な体験活動の開発が、本学教員の松尾直博より報告されました。また、地域や学校の特徴を生かした体験プログラムの開発として、小金井市、小平市、国分寺の近隣三市の小中学校6校との連携研究が、具体的な実践例と共に報告されました。

プロジェクトごとの取組が報告されたのちに、すべてのプロジェクトが協働して取り組んだ成果として「プログラムの成果の発信と普及への取り組み」が報告されました。また、プロジェクトの成果を広く共有するために行われてきた「心の教育フォーラム」、道徳教育の充実をマルチな側面からとらえるために実施されてきた各種調査、成果の発信と活用の拡充のために更新が行われてきたホームページについて発表されました。



● 調査報告 大学生の「道徳の時間」の印象調査

柄本 健太郎（専門研究員）



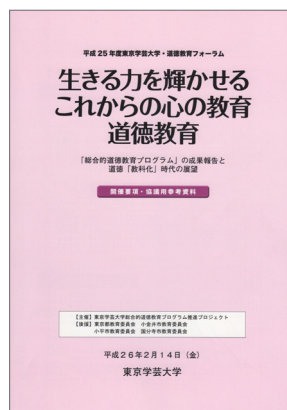
実施報告に続き、大学生を対象とした過去の道徳の時間に関する印象調査が、専門研究員の柄本健太郎より報告されました。本プロジェクトによる各種調査が紹介された後、道徳の時間の全体像・小中学校の比較結果が、今後の検討課題と共に紹介されました。

● 提案

永田 繁雄（東京学芸大学）

第1部の最後に、本学教員の永田より、本プロジェクトの成果を踏まえたこれからの道徳教育への提言として、次の4つが示されました。

- 1 子どもの心の育ちを、大人がそれぞれの立場で見守り、支援しよう
- 2 様々な教育活動の機会を生かして心を育てる多様なアプローチをしよう
- 3 子どもの生きる力を呼びます確かな道徳授業をしよう
- 4 大学自らが、家庭や地域、各学校等とのパートナーとして新たな連携を広げよう



当日冊子



当日の報告に用いた冊子

第2部 【シンポジウム】

新しい道徳教育をどう進めるか —道徳「教科化」時代に求められるもの—

15:00～16:50 S410 教室

コーディネーター：松尾 直博（東京学芸大学）

- 趣旨説明
- 現状をとらえて私はこう考える（各シンポジストから）

シンポジスト：金子 和明（東京都荒川区立第六日暮里小学校長）
富岡 栄（群馬県高崎市立第一中学校長）
白木 みどり（上越教育大学）

コメンテーター：押谷 由夫（昭和女子大学）

- 意見交流・まとめ



第2部では、「連携シンポジウム」として「子どもの心の危機をどう乗り越えるか」というテーマのもと、小中学校の学校長、大学教員等をシンポジストに迎え、現在の課題に対峙するための議論がなされました。

まず、本学教員の永田より、シンポジウムの趣旨について説明が行われました。

その後、各シンポジストからは、「子どもの心は、家庭で、学校で、地域・社会で育つこと」（東京都荒川区立第六日暮里小学校長の金子和明氏）、「教科化に向けての期待と課題としての提言」（群馬県高崎市立第一中学校長の富岡栄氏）、「変化の激しい社会に対応する道徳教育」（上越教育大学の白木みどり氏）、各15分程で発表が行われました。

続いて、コメンテーターの押谷由夫氏（昭和女子大学）より「新しい道徳教育で未来の学校を拓く—道徳の特別教科化を起爆剤として—」としてコメントがされました。

協議では、小中学校の道徳教育の違いと指導方法について、諸外国と比較した日本の道徳教育の独自性について、教科化が授業の形式・内容に与える制限の程度について、評価が子ども・教員に与える影響について、教科書が授業の画一化や政治的に与える影響について、教科化に関する各種メディアによるアンケートの解釈について、担任と専科の道徳教育の効果の相違点について、教科化が教師の行為・行動に与える制限の程度について、子どもと教師だけでなく保護者育成の観点から見た教科化の影響について、評価基準が子ども・教師に与える影響について等、様々な点が各シンポジストによって話し合われました。さらに、発表とコメントを踏まえ、押谷氏から協議のまとめが行われ、終了時刻の午後4時50分となりました。

当日いただいたアンケートから（一部概要）

当日は、教員、教育行政関係者、学生の方々などから、ご参加の感想とともに、本プログラムへの貴重なご意見を多数いただきました。ご報告の最後として、その一部をお礼とともに紹介いたします。

<全体について>

- ・コンテンツを早速使わせていただこうと思う。道徳に希望を感じた。授業の力をつけたいと思う。
- ・大変有意義なフォーラムだった。ぜひ全国展開（ツアー）をして欲しい。早く浸透すると思う。
- ・昨年度から参加させていただいている。大変すばらしい内容だが、どの程度周知されているのか。少なくとも全国の道徳関係者については聞いて知るべき内容かと思う。
- ・内容が盛りだくさんで時間がとても窮屈に感じた。シンポジストの方々のお考えをもっと聞きたいと思った。

<実施・調査報告について>

- ・本プログラムの成果がHPで見られることは、我々教員にとって、とても有難いことであり、感謝している。特に、資料選びの際に、多様な中から簡単に検索できるなど、すぐに活用させていただきたいと思う。
- ・成果での3つのプロジェクトの実践はすばらしいと感じた。それにより子どもの姿がいかに変容したかも教えてもらえたら、さらによかった。
- ・多くの成果が結実し、具体的な形となって表れていることがすばらしいと思った。様々な成果（成果物）を本市の小・中学校でも活用させていただけるとありがたい。
- ・大学生の道徳の時間の印象調査の結果を見て「やっぱり」と落胆するとともに、小中学校の教員は「もっとがんばらないといけない」と決意を新たにした。

<提案について>

- ・高校では知らないことを聞くことができた。難しかったが、小～高一貫して考えていくことが大切だと思う。
- ・今後の道徳授業づくりを考える上での、ひとつの軸を得た。実践し、更に深められたらと思う。
- ・道徳教育における多様なアプローチについて具体例も交えて提案していただき、とてもわかりやすかった。開発的発想を大切に、道徳の指導法の幅を広げていきたい。
- ・ただ心を育てるということだけでなく、生き方を広げていくという道徳を考えていきたいと思った。



<シンポジウムについて>

- ・教科化、そして評価について、難しい部分はたくさんあると思うが、道徳については常に改善や検討が必要なものだと思うので、考える良い機会になった。
- ・色々考えることができてよかった。若い教員は、ゆっくりと経験を積んでいくこともできないままどんどん走っていかねばいけない。ならばせめて、何か頼るものが欲しい。
- ・校種が異なる先生方の発表を聞いて、大変参考になった。特に中学校のお話は自分にとって興味深いものだった。
- ・授業改善は必要だと思う。しかし、イコール教科化がどうしても必要なのか。教科化することで、授業準備に今以上に時間がかかることは目に見えている。多忙化する中、他の仕事が軽減されない限り、中身の充実はあり得ないと思う。
- ・特別の教科「道徳」の推進に向けての大きな壁は「評価をいかに行うか」だと考えられる。どのような評価が考えられるのか、有効なのか、もう少し知りたかった。教科化に向けての動きは全国的な視野から考えれば、必要なことであると思っている。
- ・押谷先生のお話を前々から聞いてみたかったが、夢、希望のある道徳教育のお話が聞けてとてもよかった。

<道徳教育案について、今後どのようなフォーラムやセミナーを期待されますか>

- ・「なぜ教科化か」を明らかにするフォーラム。これまでに調査されたデータをもとにして。
- ・道徳の全体計画の実効性を確保するための方略や手立ての協議を希望する。ともすれば道徳の時間の指導に終止しがちなので。
- ・道徳教育に大きな変革が続くと思われるので、より新しい動きとその経緯、それをどうとらえ、どのような心構えで実践していけばよいかを示唆していただけるような内容。
- ・「評価について」など、テーマを絞ったフォーラムを行ってほしいと思う。
- ・実践の紹介を多く取り入れて欲しい。やるのは現場の担任だから。
- ・具体的な道徳の授業について教材研究や発問、どのような授業ができるかなど様々な方と話し合いたい。